

科目	目的・目標	内 容	単位 (時間)	方法	進度
高齢者のその人らしさを支える実習	<p>&lt;目的&gt; 認知機能に障がいのある高齢者を理解し、看護の方法を展開する能力を養う。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <p>I. 長い人生を歩み、老いを生きる老年期にある対象を全人的に捉え理解する。</p> <p>II. 対象に合わせたコミュニケーション技法を実施できる。</p> <p>III. 健康課題をもつ老年期にある対象とその家族に及ぼす影響について総合的に考察する。</p> <p>IV. 健康課題をもつ老年期にある対象とその家族に必要な看護が提供できる。</p> <p>V. 老年期にある対象の人権を尊重できる。</p> <p>VI. 健康課題をもつ老年期にある対象のケアに関わっている保健医療福祉について理解する。</p> <p>VII. 継続看護の必要性について理解し、対象とその家族にとっての看護者の役割を理解する。</p>	<p>1. 対象と場を共有し対象の言動を否定せずに聴き対象をありのままに受け止める。</p> <p>2. 認知機能に障がいのある対象にあった意図的なコミュニケーション技法を活用し、対象理解ができる。</p> <p>3. プロセスレコードを用いて、対象の言動・行動の意味を振り返ると共に、自己の感情や行動の傾向に気づき自己理解できる。</p> <p>4. 対象の1日の生活パターンを把握し、認知機能の変化とそれが対象に与える影響について理解する。</p> <p>5. 対象の生きてきた背景を知り、対象の言動・行動や周辺症状にどう影響を与えるか理解する。</p> <p>6. 対象の老年期の特徴と認知機能の特徴を捉え、強みに焦点を当てたアセスメントを行い看護展開する。</p> <p>7. 対象の快感情にアプローチし、情緒が安定して心地よい状態でいられるレクリエーションを実施・評価する。</p> <p>8. 対象の人権を尊重した言動・行動についてカンファレンス等を通して考え実施する。</p> <p>9. 対象及びその家族が地域でその人らしく生活のために必要なサポートシステムについて継続看護の視点で考える。</p>	2 90	<p>【臨地】 場所：郡山市医療介護病院 介護老人保健施設 オリオン 星ヶ丘病院</p> <p>期間：9日間</p> <p>形態：1G：4～5名 ・学生1人が老年期にあり認知機能に障がいを抱える対象を受け持ち、看護を展開する。</p>	3年次 前期